

# ドル円 160 円突破！ AI は今後のドル円相場を どう予測するのか？

～予測される 7 つのシナリオ・価格・発生確率～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

## 1. 円安がとまらない

ドル円相場が 160 円の大台を突破し、為替市場に衝撃が走っている。1990 年以来、34 年ぶりの円安水準を記録したこの動きは、経済界のみならず一般市民の間でも大きな話題となっている。円安の進行は日本経済に多大な影響を及ぼし、その行方に世間の注目が集まっている。輸出企業にとっては追い風となる一方、輸入物価の上昇によるインフレ圧力の高まりや、個人の購買力低下など、様々な側面で経済に影響を与えている。このような状況下で、多くの人々が今後のドル円相場の行方に大きな関心を寄せている。果たして円安傾向は今後も続くのか、それとも反転の兆しはあるのか。

本レポートでは、最新の AI 技術を駆使し、複数のシナリオを想定しながら今後のドル円相場の予測を試みる。経済指標、金融政策、地政学的リスク、市場心理など、多角的な要因を考慮に入れた AI の分析は、従来の予測手法では見落としがちだった新たな視点を提供し、より精度の高い予測につながる可能性がある。本分析を通じて、今後の為替動向に対する新たな洞察を得ることを目指す。

## 2. AI によるシナリオ作成と価格予測

本節では、最新の AI 技術を活用し、ドル円相場の将来予測を行う。まず、1996 年 10 月から 2024 年 6 月末のドル円データを AI に読み込ませ、「情報を分析し、洞察してください」と指示したところ、AI は読み込ませたデータが 1996 年 10 月 28 日から 2024 年 6 月 30 日までのドル円レートの週次データであることを認識し、長期トレンド、主要な変動期、変動幅、近年の傾向、周期性、ボラティリティごとに洞察を加えた（図表 1）。AI による分析結果をみると、1996 年 10 月から 2024 年 6 月までのドル円データについて、それぞれの観点から詳細に分析されている。これは人間のアナリストによる分析と比較しても遜色なく、むしろより客観的で包括的な視点を提供しているといえる。特に、データの周期性やボラティリティの変化に関する指摘は興味深く、為替市場の構造的な変化を示唆している可能性がある。

図表 1 AI によるドル円為替レートの長期分析

この CSV ファイルは、1996年10月28日から2024年6月30日までの円/米ドル為替レートの週次データを含んでいます。以下に主な洞察をまとめます：

1. 長期トレンド：

- 1996年から2024年にかけて、全体的に円安ドル高のトレンドが見られます。
- 1996年10月の始値は114.37円/ドルで、2024年6月の終値は160.83円/ドルとなっています。

2. 主要な変動期：

- 1998年8月～10月：アジア通貨危機の影響で急激な円高が進行 (147円台から111円台へ)
- 2008年9月～2009年1月：リーマンショックの影響で急激な円高 (110円台から87円台へ)
- 2012年11月～2015年6月：アベノミクスの影響で急激な円安 (79円台から125円台へ)
- 2020年3月：コロナショックによる一時的な円高 (112円台から101円台へ)
- 2022年3月～2024年6月：日米金融政策の乖離による急激な円安 (115円台から160円台へ)

3. 変動幅：

- 最安値：1998年8月に147.63円/ドル
- 最高値：2011年10月に75.75円/ドル
- 全期間を通じて、約72円の変動幅がありました。

4. 近年の傾向：

- 2020年以降、特に2022年から2024年にかけて急激な円安が進行しています。
- これは主に日本銀行の金融緩和政策維持と米国の利上げによる日米金利差拡大が要因と考えられます。

5. 周期性：

- 明確な周期性は見られませんが、数年単位での円高・円安のサイクルが観察されます。

6. ボラティリティ：

- 金融危機や重要な経済イベント時に為替レートの変動が大きくなる傾向があります。

このデータは、グローバルな経済イベント、各国の金融政策、地政学的リスクなどが為替レートに大きな影響を与えることを示しています。また、長期的な円安トレンドは、日本経済の相対的な位置づけの変化を反映している可能性があります。

資料：Claude3 より筆者作成

今回の為替予測では、大量のテキストデータとコードから学習した大規模言語モデル (LLM) が用いられている。LLMは、過去のデータパターンや複雑な関係性を学習し、多様な情報源から得た知識を統合して分析することができる。これにより、経済指標、政策動向、市場心理など、為替市場に影響を与える多面的な要因を包括的に考慮した予測が可能となる。しかし、LLMは複雑な内部構造を持つため、その予測根拠

を完全に特定し説明することは困難である。提示される情報は、あくまで予測に影響を与えた可能性のある要素の一部であり、すべての根拠を網羅するものではないことに留意が必要である。

次に、AIに対して「想定内の複数のシナリオを前提に、2024年9月末、12月末、2025年3月末のドル円価格を予測してください。またその根拠も教えてください」と指示したところ、AIは留意点として「これらの予測は、現時点での情報と過去のトレンドに基づいています。実際の為替レートは、予期せぬ経済イベントや政策変更によって大きく変動する可能性があります」としたうえで、現状維持シナリオ、日米金融政策収束シナリオ、グローバル経済混乱シナリオの3つを挙げ、2024年9月末、12月末、2025年3月末の価格予測と根拠を示した（図表2）。

これらのシナリオは、現在の経済状況を踏まえた妥当なものであり、特に日米金融政策の動向がドル円相場に与える影響を重視している点は適切と考えられる。ただし、各シナリオにおける価格予測の幅がやや狭い印象があり、実際の市場ではより大きな変動が起こる可能性も考慮すべきだろう。

図表2 AIによる想定内シナリオに基づくドル円価格予測

2024年9月末、12月末、2025年3月末のドル円価格を予測するにあたり、以下の3つのシナリオを想定します。それぞれのシナリオに基づいて価格を予測し、その根拠を説明します。

シナリオ1: 現状維持シナリオ

シナリオ2: 日米金融政策収束シナリオ

シナリオ3: グローバル経済混乱シナリオ

#### 1. 現状維持シナリオ

2024年9月末: 162円/ドル

2024年12月末: 164円/ドル

2025年3月末: 165円/ドル

根拠:

- 日本銀行の金融緩和政策が継続
- 米国の金利が高止まり
- 日米金利差が維持され、緩やかな円安トレンドが続く
- 季節要因（年末の円需要など）を考慮

#### 2. 日米金融政策収束シナリオ

2024年9月末: 155円/ドル

2024年12月末: 150円/ドル

2025年3月末: 145円/ドル

根拠:

- 日本銀行が金融引き締めへ転じる
- 米国がインフレ抑制に成功し、利下げを開始
- 日米金利差が縮小し、円高方向に動く
- 市場が先行きを織り込み、円高ペースが加速

#### 3. グローバル経済混乱シナリオ

2024年9月末: 170円/ドル

2024年12月末: 175円/ドル

2025年3月末: 180円/ドル

根拠:

- 地政学的リスクの顕在化（例：中東情勢の悪化）
- グローバルなインフレ圧力の再燃
- 米国が予想以上の利上げを実施
- リスク回避の動きが強まり、ドル高が進行
- 日本の経済ファンダメンタルズの相対的な弱さが露呈

これらの予測は、現時点での情報と過去のトレンドに基づいています。実際の為替レートは、予期せぬ経済イベントや政策変更によって大きく変動する可能性があります。また、中央銀行の政策、インフレ動向、地政学的リスク、グローバルな経済成長率など、多くの要因が複雑に絡み合っ為替レートに影響を与えることに注意が必要です。

投資家や企業は、これらの複数のシナリオを念頭に置きつつ、常に最新の経済指標や政策動向をモニタリングし、柔軟に対応することが重要です。

資料: Claude3 より筆者作成

さらに、AIに対して「想定外の複数のシナリオを前提に、2024年9月末、12月

末、2024年3月末のドル円価格を予測してください。またその根拠も教えてください」と指示をした。AIは前提条件として「これらは通常では考えにくい状況ですが、金融市場に大きな影響を与える可能性のあるシナリオです」としたうえで、日本の急激な金融政策転換、米国経済の急激な悪化、地政学的ショック、技術革新による経済構造の激変の4つのシナリオを挙げ、2024年9月末、12月末、2025年3月末の価格予測と根拠を示した（図表3）。これらのシナリオは確かに「想定外」の要素を含んでおり、市場に大きな影響を与える可能性がある事象を適切に捉えている。特に、技術革新による経済構造の激変というシナリオは、近年のAI技術の急速な発展を考慮すると非常に興味深い。ただし、これらの想定外シナリオにおける価格予測は、その性質上非常に不確実性が高いため、具体的な数値よりも、各シナリオが市場にもたらす可能性のある影響の方向性や大きさに注目すべきである。

総じて、AIによる分析は従来の経済分析に新たな視点を加え、より多角的な将来予測を可能にしている。ただし、AIの予測にも限界がある。AIは過去のデータと現在の状況に基づいて予測を行うため、完全に予期せぬ事象や人間の感情に基づく複雑な市場の反応を正確に予測することは困難である。そのため、AIの分析結果は、人間の専門家の判断と組み合わせて活用することが重要である。これらの予測をより実用的なものにするには、各シナリオの発生確率を考慮することが不可欠である。確率的アプローチを採用することで、投資家や政策立案者はリスクとリターンのバランスを適切に評価し、より十分な情報に基づいた合理的な意思決定を行うことができる。

図表3 AIによる想定外シナリオに基づくドル円価格予測

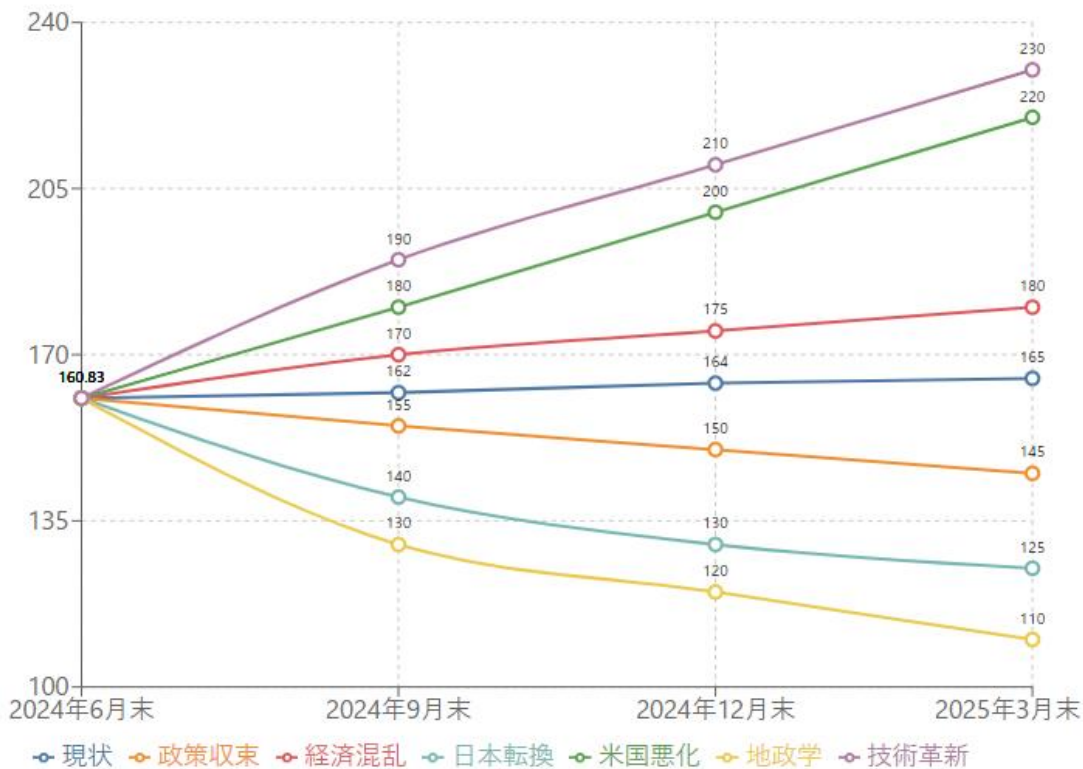
|  |
|--|
| シナリオ1: 日本の急激な金融政策転換  |
| 2024年9月末: 140円/ドル  |
| 2024年12月末: 130円/ドル   |
| 2025年3月末: 125円/ドル  |
| 根拠:  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行が突如として大幅な利上げを実施（例：政策金利を0.5%から3%に引き上げ）</li> <li>インフレ抑制を最優先課題とし、イールドカーブコントロールを完全撤廃</li> <li>急激な政策転換により、円が急騰</li> <li>海外投資家の日本国債への需要が急増</li> </ul> |
| このシナリオは、日本のデフレ脱却が予想以上に進展し、インフレ率が急上昇した場合に起こり得ます。  |
| シナリオ2: 米国経済の急激な悪化  |
| 2024年9月末: 180円/ドル  |
| 2024年12月末: 200円/ドル   |
| 2025年3月末: 220円/ドル  |
| 根拠:  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>米国で予期せぬ金融危機が発生（例：大手金融機関の破綻）</li> <li>FRBが緊急利下げを実施するも、ドル需要が急増</li> <li>世界的な景気後退懸念から、安全資産としてのドル買いが加速</li> <li>日本経済の相対的な安定性が損なわれ、円安が進行</li> </ul>      |
| このシナリオは、米国経済の構造的な問題が表面化し、世界経済に波及する場合に起こり得ます。   |
| シナリオ3: 地政学的ショック  |
| 2024年9月末: 130円/ドル  |
| 2024年12月末: 120円/ドル   |
| 2025年3月末: 110円/ドル  |
| 根拠:  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な地政学的衝突が発生（例：台湾海峡での軍事衝突）</li> <li>グローバルサプライチェーンの混乱により、世界経済が停滞</li> <li>リスク回避の動きが強まり、円が急騰（有事の円買い）</li> <li>日本の地理的位置から、相対的に安全な投資先とみなされる</li> </ul> |
| このシナリオは、国際情勢が急激に悪化し、世界経済に甚大な影響を与える場合に起こり得ます。   |
| シナリオ4: 技術革新による経済構造の激変  |
| 2024年9月末: 190円/ドル  |
| 2024年12月末: 210円/ドル   |
| 2025年3月末: 230円/ドル  |
| 根拠:  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>AIやクリーンエネルギー分野で米国企業が圧倒的な優位性を確立</li> <li>新技術により米国の生産性が急激に向上し、経済成長が加速</li> <li>日本経済が相対的に停滞し、円安が加速</li> <li>新技術への投資を目的とした資金が米国に集中</li> </ul>           |

資料: Claude3 より筆者作成

### 3.AIが予測する各シナリオの発生確率とその意味合い

次に、AIが予測した7つのシナリオの発生確率とその意味合いについて詳細に分析する。

図表4 AIが予測した各シナリオにおけるドル円レートの推移と各シナリオの発生確率



| 現状  | 政策収束 | 経済混乱 | 日本転換 | 米国悪化 | 地政学 | 技術革新 |
|-----|------|------|------|------|-----|------|
| 40% | 30%  | 20%  | 3%   | 3%   | 2%  | 2%   |

想定内シナリオ: 現状維持、日米金融政策収束、グローバル経済混乱

想定外シナリオ: 日本の急激な金融政策転換、米国経済の急激な悪化、地政学的ショック、技術革新による経済構造の激変

資料: Claude3 より筆者作成

図表4は、AIが予測した各シナリオにおけるドル円レートの推移と、各シナリオの発生確率を示している。AIの分析によると、最も発生確率が高いのは「現状維持シナリオ」で40%となっている。これは、短期的には急激な変化よりも緩やかな推移が予想されることを示唆している。次いで高い確率が割り当てられているのは「日米金融政策収束シナリオ」で30%である。この二つのシナリオで全体の70%を占めており、AIは比較的安定した市場環境が継続する可能性が高いと予測していると解釈できる。一方、「グローバル経済混乱シナリオ」には20%の確率が割り当てられてお

り、世界経済の不確実性も無視できない水準で存在していることを示唆している。

想定外シナリオについては、「日本の急激な金融政策転換」と「米国経済の急激な悪化」にそれぞれ3%、「地政学的ショック」に2%、「技術革新による経済構造の激変」に2%の確率が割り当てられている。これらの想定外シナリオの合計確率は10%となっており、市場に大きな影響を与える可能性のある事象が発生する確率が決して低くないことを示している。特に「日本の急激な金融政策転換」と「米国経済の急激な悪化」に比較的高い確率が割り当てられていることは注目に値する。これは、現在の金融政策や経済状況が急激に変化する可能性を、AIが一定程度考慮していることを示している。一方で、「技術革新による経済構造の激変」の確率が最も低く設定されているのは、短期的にはAI等の技術革新が為替市場に劇的な影響を与える可能性は低いとAIが判断していることになる。これらの確率予測は、投資家や政策立案者に対して、主要なシナリオに備えつつも、低確率ではあるが影響の大きいシナリオにも注意を払う必要があることを示唆している。

#### 4.AIを活用した為替予測の可能性と課題

以上、AIを活用したドル円相場の将来予測を試みた。ここで、これまでの分析内容を要約しておく。1節では、円安の進行とその日本経済への多面的な影響について概観した。2節では、AIを用いて想定内および想定外の複数のシナリオを生成し、各シナリオに基づく具体的な価格予測を行った。3節では、AIが予測した各シナリオの発生確率を分析し、その意味合いについて考察を加えた。これらの分析を通じて、AIを活用した為替予測には新たな可能性がある一方で、いくつかの重要な課題も存在することが明らかになった。以下では、AIによる分析の可能性と課題について詳細に検討していく。

AIによる分析の最大の利点は、複数のシナリオを同時に考慮し、それぞれに発生確率を割り当てることで、より包括的かつ現実的な市場展望を提供できる点である。これにより、従来は投資家や政策立案者が独自に行っていたような多様な可能性を考慮した予測を、一定の根拠を示しつつ誰でも参照できる形で提供することが可能となる。

特に、想定外シナリオにも一定の確率を割り当てることで、低確率ではあるが影響の大きい事象にも備えることができる。しかしながら、AIによる予測にも課題がある。AIの分析は過去のデータと現在の状況に基づいているため、完全に予期せぬ事象や人間の感情に基づく市場の反応を完全に予測することは困難である。また、AIが提示した確率自体が市場参加者の行動を変え、結果として予測とは異なる事態が発生する可能性もある。さらに、AIによる予測プロセスの理解を深め、その結果の解釈をより容易にすることも重要な課題である。

これらの課題を克服するには、AIの予測能力をさらに向上させるとともに、人間の

専門家の知見とAIの分析を組み合わせたハイブリッドなアプローチの開発が必要である。たとえば、AIが提示したシナリオと確率をもとに、人間の専門家がさらなる分析や解釈を加えることで、より精度が高く、かつ実用的な為替予測が可能になるだろう。今後、説明可能なAI（XAI）（注1）技術の発展により、AIの予測プロセスの一部をより明確化し、その決定要因や重要な特徴をより分かりやすく示せるようになることが期待される。ただし、AIの完全な思考回路を明らかにすることは困難であり、むしろAIと人間の専門家の協働による予測精度の向上が重要となる。

結論として、AIを活用した確率的アプローチによる為替予測は、市場参加者に新たな洞察と意思決定のツールを提供する大きな可能性を秘めている。しかし、その活用に当たっては、AIの限界と課題を十分に理解し、人間の専門知識や判断と適切に組み合わせることが不可欠である。今後、このような新たな予測手法の開発と実用化が進むことで、為替市場分析の精度と有用性が大きく向上することが期待される。

**【注釈】**

- 1) 説明可能なAI（XAI）とは、AIシステムの判断過程や結果を人間が理解できるように説明する技術や手法のこと。